

共催：日本免疫学会  
シグマ アルドリッチ ジャパン株式会社

## 抗体テクノロジーを考える

～抗体の新技术を用いた研究二題から～

### 1.ゲノム網羅的な抗体作成によるプロテオーム解析の新展開

山田哲司（国立がん研究センター研究所 上席副所長 創薬臨床研究分野長）

ヒトゲノム上にあるすべての遺伝子産物に対する抗体を作成しようとするHuman ProteinAtlasプロジェクトが進んでいる。今年5月に発表されたHuman ProteinAtlasバージョン8.0では、11260遺伝子の産物のデータが公開されている。このような大規模な抗体ライブラリーを用いることにより、従来のプロテオーム解析技術では検出できなかった低発現量のタンパク質の発現や局在を系統的に解析することが可能になってきている。本セミナーではこのような抗体ライブラリーを用いたプロテオーム解析によるがんの診断・治療法の開発について、自験例を紹介する。

### 2.腸骨リンパ節法 ～迅速かつ効率的なモノクローナル抗体作製法～

立花太郎（大阪市立大学大学院工学研究科細胞工学研究室 准教授）

腸骨リンパ節法は、数多くの陽性クローンを得ることが出来るので、自分の研究に適した抗体の選別が容易です。私達は腸骨リンパ節法を利用して、膜蛋白質の細胞外ドメイン、リン酸化やアセチル化などのダブル修飾、特定のアセチルグルコサミン修飾など、これまで作製が難しかったエピトープに対する抗体の樹立に成功しています。またクロマチン関連蛋白質に対する抗体も多数作製し、その多くはChIPアッセイやChIP-Seq(全ゲノムクロマチン免疫沈降シーケンス)に利用可能であることを確認しています。今回のセミナーでは腸骨リンパ節法の概略および抗体作製例についてご紹介します。

日時： 2011年11月28日(月) 12:50～13:50

場所： J会場 (幕張メッセ 302)

本学会ランチオンセミナーは整理券制でございます。